

(別紙1)

カリキュラム

講義 1			
科目	基本介護技術・指導技術と介護技術の向上（1・2級課程） 「高齢者の食と口腔ケア」		
講師	杉並保健所 地域保健課 歯科医師 岡田 弥生 東京家政学院大学・大学院 家政学部 准教授 松月 弘恵		
日時・場所	平成20年2月11日（月） 9:00～17:00 ウィリング横浜 10階 「介護実習室I」		
定員	50名	受講料	7,000円
<p>「口から食べる」ことは食支援の基本です。また、介護予防の観点からも口腔ケアや高齢期における栄養管理は重要です。</p> <p>「口腔ケア」には、利用者の自立とQOLの向上につながる広義の意味から、口腔内の清潔を保つ狭義の意味まで、非常に幅広くとらえ考える必要があります。摂食から嚥下までのメカニズムや口腔機能の低下の防止について、体験を通して学びます。</p> <p>また、高齢者に必要な栄養が簡単に摂れるクイック調理を実習し、高齢期における栄養ケアマネジメントについても理解を深めていただきます。</p>			

講義 2			
科目	ケアマネジメント技術（1級課程）		
講師	早稲田大学 人間科学部 健康福祉科学科 教授 加瀬 裕子		
日時・場所	平成20年2月12日（火） 10:00～17:00 ウィリング横浜 12階 「121～123号室」		
定員	50名	受講料	7,000円
<p>ホームヘルパーはケアマネジャーではありません。しかし、複数の専門職がチームを組んで活動する中で、利用者にとって最も身近な存在であるホームヘルパーにも、ケアマネジメントの視点は必要不可欠であることから、事例を使って、その理論と方法について、分かりやすく研修を行う方法を解説します。</p> <p>また、18年度からは介護予防ケアマネジメントが始まり、ホームヘルパーの役割が更に重要となりますので、介護予防や包括的ケアマネジメントの事例を中心に学んでいただきます。</p>			

講義 3			
科目	訪問介護計画の作成と記録・報告の技術（2級課程）		
講師	日本ホームヘルパー協会 会長 因 利恵		
日時・場所	平成20年2月13日（水） 10:00～17:00 ウィリング横浜 12階 「121～123号室」		
定員	50名	受講料	7,000円
<p>訪問介護計画の作成はサービス提供責任者が行いますが、ホームヘルパーにはその訪問介護計画に沿ったサービスの提供が求められます。</p> <p>利用者にとって最も身近な存在であるホームヘルパーは、利用者に関してより多くの情報を持ち、それを記録し伝達する力が不可欠です。</p> <p>本研修では、訪問介護計画がどのような視点で、どのように作られているのかを理解し、作成手順について学びます。</p> <p>また、利用者の状況・状態について、誰もが分かる記録の書き方を学習すると共に、利用者が自立した生活が送れるよう自立支援の観点からの考えを深めます。</p>			

講義 4			
科目	困難事例等対応技術（1級課程）		
講師	日本ホームヘルパー協会 会長 因 利恵		
日時・場所	平成20年2月14日（木） 10:00～17:00 ウィリング横浜 12階 「121～123号室」		
定員	50名	受講料	7,000円
<p>1級ホームヘルパーは、管理能力・指導能力が求められ、業務の中核を担う立場であり、自らの活動は基より、困難事例に悩むホームヘルパーへの助言を行う立場となります。</p> <p>困難事例において課題とされることは様々ですが、多角的な見方とその対応について、グループ討議を通して明らかにしていく方法をご提案します。</p>			

講義 5			
科目	福祉用具の使用技術（1級課程）		
講師	横浜市総合リハビリテーションセンター センター長 田中 理 他3名		
日時・場所	平成20年2月15日（金） 10:00～17:00 ウィリング横浜 12階 「121～123号室」 10階 「介護実習室I」		
定員	50名	受講料	7,000円
<p>利用者の状態・目的にあった福祉用具を適切に使用することは、利用者の身体的・精神的負担感や、介護者の介護負担の軽減等の効果をもたらすと共に、利用者の生活活動範囲も拡大し、利用者の自立支援にもつながります。</p> <p>本研修では基本となるベッドから車いす等への移乗（リフト等）を中心に、実際に福祉用具を体験し操作方法を再確認していただくと共に、福祉用具の利用目的や利用者への適応のポイントを分かりやすく説明します。</p>			

講義 6			
科目	レクリエーション体験学習（2級課程）		
講師	財団法人 日本レクリエーション協会 福祉レクリエーション推進部 プロデューサー 小久保 信幸		
日時・場所	平成20年2月16日（土） 10:00～17:00 ウィリング横浜 12階 「121～123号室」		
定員	50名	受講料	7,000円
<p>ホームヘルプサービスにおいて、レクリエーションは、業務の質的向上や利用者の社会参加への意欲付けなどの効果をもたらすと共に、ホームヘルパーと利用者の相互理解においても良好な関係を構築し、結果、利用者の自立支援、ノーマライゼーションの実現へとつながります。</p> <p>本研修では、レクリエーション活用の視点や講義方法（学習法や教材等）を個別支援の場におけるレクリエーションの事例や体験を通して理解していただきます。</p>			

講義 7

科目	基本介護技術・指導技術と介護技術の向上（1・2級課程）		
講師	東洋大学 ライフデザイン学部 講師 柴田 範子		
日時・場所	平成20年2月17日（日）～18日（月） 9：00～17：00（2日間の講義です） ウィリング横浜 12階 「121～123号室」		
定員	50名	受講料	13,000円
<p>介護基本姿勢を押さえた上で、基本介護技術の中からベッドメイキング、移動介助、衣服の着脱、排泄を取り上げ、利用者、介護者相互の安全、安心の基本となるボディ・メカニクスの原則に則った指導方法の理解を実践で深めます。また、利用者自らができること・できると思われることを引き出し、利用者の状態・要介護度に応じた介護技術及び介護予防・自立を可能にする介護技術を、講義へどのように取り入れるかについても紹介しながら実践を通して学習します。</p>			

講義 8

科目	共感的理解と基本的態度の習得（2級課程）		
講師	同志社大学 社会学部 教授 小山 隆		
日時・場所	平成20年2月19日（火） 10：00～17：00 ウィリング横浜 12階 「121～123号室」		
定員	50名	受講料	7,000円
<p>対人援助の専門職であるホームヘルパーは「共感的理解」をはじめとする基本的態度を習得する必要があります。たとえ十分な知識と技術を持っていても、利用者から受け入れられなければ良いサービスを提供することはできません。受容、傾聴、共感が対人援助職にとっていかに重要なものか、またそれを踏まえたコミュニケーションの取り方とは何か、どのように伝えるかを学びます。</p>			